

特別頒布対象図録

平成30年1月1日現在

図 録	発行年月日	定価	特別頒布価格
日蘭交流400年記念特別展	12. 2. 27	2,000	1,000
今日のオランダ王室の祖、ウィレム5世の時代である、18世紀後期に花開いた、優美かつ端正なオランダ宮廷文化の美の精華を、絵画や様々な工芸品を通して、ご紹介しています。			
明治美術再見IV	13. 1. 13	1,500	750
洋画家・山本芳翠の油彩作品を中心に、高橋由一、五姓田吉松など、明治初期から中期にかけての主要な洋画家たちの諸作と、これまで公開されていない三の丸尚蔵館収蔵の明治期記録写真とを、写実的な記録性に焦点を当ててご紹介しています。			
工芸風土記 式一木・竹・漆工の世界	15. 7. 5	1,500	750
木・竹・漆の三分野の工芸作品を特集してご紹介しています。 木工は、桑や黄楊 <small>つげ</small> の良材産地の三宅島・御蔵島産を使用の指物や櫛及び明治期以降富山に伝えられた木象嵌による作品、竹工は、飯塚琅玕齋 <small>ろうかんさい</small> の作品も含め、大正十年代から昭和初期にかけて制作された花籠の数々、漆工は、津軽の変わり塗、会津や金沢の蒔絵をはじめ香川、久留米、沖縄などの多彩な技法による作品です。			
贈るころ・受けとられた美	17. 1. 8	1,500	750
皇室が世界の国々とのご交際に際し、増進を受けられた品々を、ご紹介しています。ヨーロッパの絵画、彫刻、ガラスや陶磁器などの工芸品、タイの金工品や漆工品、トルコの刺繍作品などのほか、アメジストや銀の小箱、ブローチなどの装飾品も含まれています。			
官展を彩った名品・話題作	17. 7. 23	1,800	900
三の丸尚蔵館収蔵の、かつての官設美術展覧会で発表時に高い評価を受けた、大正から昭和にかけての選りすぐりの絵画作品、工芸品の数々を、ご紹介しています。			
福やござれ一寿ぎの美・新春に集う	19. 1. 6	1,800	900
三の丸尚蔵館には、明治期以降の皇室の御慶事に際して献上された、寿の美が表された作品が収蔵されています。新春にちなみ、新たな年に福の神を迎え、初夢に願いを込める正月を飾る品々を中心に、松竹梅に鶴亀、七福神や宝船など、幅広く親しまれた作品を、ご紹介しています。			
香淳皇后の御絵と画伯たち	19. 3. 27	1,500	750
香淳皇后(昭和天皇の皇后)は、高取稚成、川合玉堂、前田青邨に日本画の指導を受けられ、多くの絵画作品を遺されました。この図録は、香淳皇后の御絵とともに三人の師の作品、ご親交のあった山口蓬春、奥村土牛両画伯の作品を、ご紹介しています。			
京焼多彩なり一明治から昭和へ	19. 7. 7	1,500	750
わが国の焼き物の中でも、京焼は華やかな意匠と繊細な絵付けによって親しまれています。三の丸尚蔵館収蔵の、三代清風與平、五代・六代清水六兵衛、楠部彌弉などの作品を中心に、多彩に展開してきた近現代の京焼を、ご紹介しています。			
祝美一大正期皇室御慶事の品々	19. 9. 29	1,500	750
大正時代は、慶祝の意をこめたさまざまな美術工芸品の制作が、最も充実した時期です。こうした大正期御慶事の際、奉祝のために制作され、献上された美術品の数々を通して、それらの意匠的特徴、これらにかかわった人々と時代の特徴等を、ご紹介しています。			
三峰窯の思い出一宮様とやきもの	21. 1. 6	1,700	850
三峰窯は、秩父宮殿下が御殿場ご別邸で療養生活を送られていた際、陶芸に親しみたいとお気持ちから、昭和25年に陶芸家加藤土師萌に築かせたもので、ご別邸から眺められた富士・箱根・愛鷹の三峰と秩父三峰にちなんで、名付けられました。加藤土師萌は高松宮殿下にも陶芸の指導に当たったことから、旧秩父宮家・旧高松宮家のご遺品の中から、両宮家に縁の深い陶芸家の三峰窯にまつわる作品を、ご紹介しています。			

花ひらく個性、作家の時代	22. 3. 30	1, 500	750
美術御奨励のため、皇室御下命による作品、御慶事の際のお祝いの品、各種展覧会に出 品されお買い上げになられた作品など、大正から昭和期に活躍した、山口蓬春、横山大観、 宇田荻邨、竹内栖鳳、高村光雲、河井寛次郎、板谷波山ほか多くの作家たちの作品を、ご紹 介しています。			
近代の洋画家、創作の眼差し	22. 10. 30	1, 600	800
明治期から昭和初期にかけてわが国に根付いた洋画を、描かれた主題に注目し、国内及 び海外の風景を描いた作品、同時代の世相を写し取った作品、我が国の歴史を題材にした 作品に分けて、ご紹介しています。			
若梅に撫子ー旧高松宮家と伝来の品々	25. 3. 26	1, 700	850
三の丸尚蔵館が旧高松宮家から御遺贈を受けた両殿下にゆかりの深い品々の他、大正天 皇、貞明皇后の御遺品や旧有栖川宮家から引き継がれた優品の数々を通して、両殿下と美 術の深いつながりについてご紹介しています。			
美を伝えゆくー名品に見る20年の歩み	25. 10. 12	1, 300	650
三の丸尚蔵館は、昭和天皇並びに香淳皇后、さらに旧秩父宮家及び旧高松宮家から寄贈 された美術工芸品を調査研究し、保存しています。これまでに修理した名品の公開を通して、 修理事業の意義及び技術をご紹介しています。			
華麗なる近代京焼ー有栖川宮家伝来、幹山 伝七の逸品	26. 3. 21	1, 500	750
旧高松宮家から平成17年に御遺贈された美術工芸品の中に、幹山伝七による磁器製の和 食器600点が含まれていました。幹山伝七(1821~90)は西洋顔料を積極的に取り入れ京 焼に新風を吹き込みました。明治期の華麗なる和食器を通じて近代京焼の魅力をご紹介して います。			
明治天皇を支えた二人 三条実美と岩倉具視 ー大絵巻が語る幕末維新	26. 7. 19	1, 700	850
三条実美と岩倉具視が幕末維新に果たした役割をご紹介するとともに、絵巻の制作に当 たった画家・田中有美の魅力についてもご紹介しています。			
天皇陛下傘寿記念 天皇陛下昭和28年欧米 14か国の旅~新たな感動と出会い~	26. 10. 18	2, 000	1, 000
天皇陛下傘寿の節目に当たり、80年のご足跡の中でも大きな意義を持つ、昭和28年に英 国エリザベス女王戴冠式に昭和天皇のご名代として参列され、欧米14か国を歴訪された際 の、貴重な資料をご紹介しています。			
鳥の楽園ー多彩、多様な美の表現	27. 3. 21	1, 600	800
美しい宝石のような羽を持つ鳥や力強く空を自由に舞い飛ぶ鳥の姿に人々は古来より吉 祥の意を見いだしてきました。19世紀から現代までの国内外の鳥を主題とした数々の作品を ご紹介しています。			
1920s~30s モダンエイジー光と影の造形美	27. 9. 12	1, 700	850
各国に大きな傷跡を残した第一次世界大戦のあと、1920年代から30年代に光彩を放つ新し い芸術文化が開花しました。昭和天皇が大正10年にヨーロッパを歴訪され持ち帰られた品々 を始め、日本の大正ロマン、昭和モダンとも呼ばれる同時代の作品をご紹介しています。			
北欧の工芸ー自然が生み出す	28. 1. 9	1, 500	750
明治から昭和の時代に世界各国から皇室へ贈られた数多くの美術工芸品の中で、近年、北 欧デザインと呼ばれて多くの人々に親しまれるようになった北欧の国々の工芸品に焦点を当 て、その魅力と特徴をご紹介しています。			

* 送料等については、頒布品のご紹介:図録のサイトとをご確認下さい。